

# 近代下呂における都市形成—六見橋の位置づけ—

岐阜大学 学生会員 清水勇介  
 岐阜大学 正会員 出村嘉史

## 1. はじめに

岐阜県飛騨地方の南部に位置する下呂は、古くから温泉地として地元民や遠方からの湯治客に親しまれてきた。そして今日宿泊数が年間100万人を超える観光地下呂として、日々沢山の観光客を楽しませている。

近代以前に天然温泉を中心とした小集落にすぎなかった下呂が近代以降現在の下呂としての基盤を得た<sup>1)</sup>その流れと形成を明らかにしたい。



図-1 下呂市街

動きを都市形成に重要な役割を果たしたと考えられるいくつかの事業に分類し、年表を作成した。各事業とは温泉開発事業(掘削, 権利, 内・外湯), 土地開発事業, 橋梁事業(六見橋), 電力事業(水力発電), 鉄道事業(高山線), 観光開発事業(御嶽登山道)である。作成した年表を表-1に示す。

表-1より大正期から昭和初期にかけて、各事業に関する様々な動きがあることが把握できた。よって本研究では抽出した各事業に着目し、分析を進める。今回本稿では、橋梁架設事業として六見橋架設に着目する。六見橋は対象地で最初に架設がなされ、下呂富士を望む重要な視点場として書籍<sup>3)</sup>や絵葉書で紹介されている。

## 2. 対象地と着目点

### (1) 対象地概要

本研究の対象地は岐阜県下呂市の市街地である湯之島, 幸田, 森の三地区とする。三地区の特徴<sup>2)</sup>は、古くから温泉の権利を有し、温泉街を形成している湯之島地区, 鉄道が開通し下呂駅を中心として発展した幸田地区, 昭和初期に土地開発が行われ、宅地化された森地区である。この三地区の間を縫うように木曾川の支流飛騨川が流れており、飛騨川河畔が下呂温泉の湧出場所である。対象地域を図-1に示す。

### (2) 着目する年代と事象

近代下呂に関する動きを把握するため、取得した各資料から様々な主体の動きを抽出した。次に抽出した

表-1 下呂年表 (著者作成)

西暦	年号	温泉開発	温泉関係 温泉の権利	外湯(共同湯)・内湯旅館	土地開発事業	橋梁事業 六見橋	電力事業 水力発電	鉄道事業 高山線開通	観光関係 御嶽登山道
1912	大正元	(以前)断続的な開発(湯之島区民)							
1913	大正2	開発(小林重正)	官有借地権(小林重正)						
1914	大正3		官有地使用权(小林重正・島区民)				水電事業の許可(下呂水力電気)		
1915	大正4		官有地私下譲(小林+区民)				権利譲渡(下呂水力⇒下呂共立電気株式会社)		
1916	大正5						発電用水路使用許可(岐阜県)		
1917	大正6	発見(小林)					大淵発電所完成出力28W(下呂共立)		
1918	大正7					橋梁架設費積立金設置規程 橋梁設計及補助申請の件		高山線・飛越線鉄道敷設法案可決	
1919	大正8	営業(小林)	官有地継続使用願(小林+区民)					起工	
1920	大正9	営業中止(小林)					大淵発電所出力増強43W(下呂共立)	岐阜-各務原間	
1923	大正12		川敷使用願2件(区民)						
1924	大正13	開発(区民)							下麻生-上麻生間
1925	大正14						発電用水利仕様変更願(下呂共立電気)		
1926	大正15	業師合資会社(区民) 下呂温泉合資会社(区民)		外湯(共同湯) 業師の湯(湯之島区民) 白鷺の湯(区民)					上麻生-白川口間
1927	昭和2	開発(岩田竹七)							
1928	昭和3	飛騨川温泉土地株式会社(岩田竹七)	申合規約(区民)		幸田 土地購入(後藤幸三), 土地購入(滝多賀男) 下呂温泉土地協会 土地を売却しているのを確認(下呂温泉地協団)				下呂の土地購入(鉄道省) 白川口-飛騨金山間
1929	昭和4			内湯 土地購入(水明館・滝多賀男)					下呂の土地購入(鉄道省) 飛騨金山-焼石間 登山道開拓実地調査
1930	昭和5				森 大田園区画整理組合	架替計画(下呂町役場)			焼石-下呂間 登山道遠成同盟會 登山道完成
1931	昭和6	開発(水明館・滝多賀男)		内湯 開業(湯之島館・飛騨川)		架替(町役場)	木曾川水系竹原川発電所河水使用許 違背更許可/件(岐阜県⇒内務省) 命合書(岐阜県⇒下呂共立)		下呂-飛騨萩原間
1932	昭和7			内湯 開業(水明館・滝)					避難小屋の建設
1934	昭和9								高山本線全通
1939	昭和14				幸田 下呂温泉土地区画整理組合				
1940	昭和15	補送場施設, 原泉保護施設			幸田 組合・副組合長を選任				飛騨電燈と合併(下呂共立)

### 3. 橋梁架設事業 (六見橋架設について)

#### (1) 六見橋架け替え

六見橋は少ヶ野, 森地区間に架設された橋梁である。現在の六見橋は昭和6年に釣橋から鉄材橋へと架け替えられている。釣橋は大正12年に当時村長であった中川源治郎が5000円もの寄附<sup>4)</sup>をし, 小学校児童の通学のため<sup>5)</sup>に架設された橋梁である。架け替えについては昭和5年3月7日第三回下呂町會議において『議案第十二號』<sup>6)</sup>として橋梁架設の案が決議されている。「下呂停車場ニ通ズル橋梁」を「交通上支障アル」ため, 架け替えるとしている。昭和5年11月に省線高山線の焼石, 下呂駅間開通<sup>7)</sup>が予定されていることから, それに伴う人の移動や物流の増加に対応を迫られたからだと考えられる。

#### (2) 森の市街化

森地区では昭和5年頃より区画の整理が行われていた。『下呂町誌』<sup>8)</sup>によると, 都市の拡大に対応し「一大市街地」を目指して, 森地区が選ばれ「幹線道路及縦横基盤形」による区画整理が行われたことがわかる。

森地区の開発は, その後の都市計画街路に引継がれる。「都市計画街路決定」<sup>9)</sup>の図面を図-2に示す。

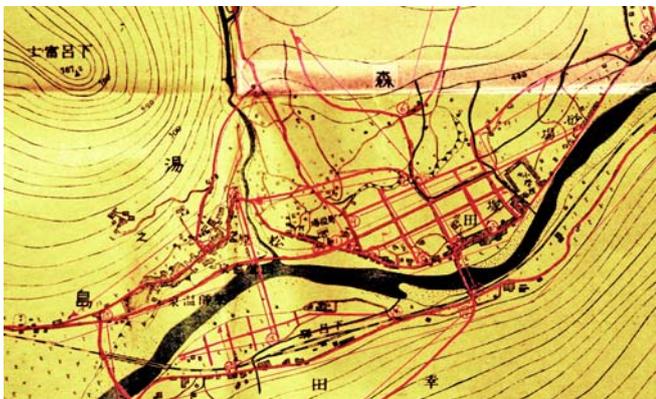


図-2 都市計画街路図市街地部分

#### (3) 湯之島と幸田を結ぶ橋の構想

図-2における3つの橋梁のうち既に架設されているのが右の六見橋で, 昭和39年に「夢の大橋」<sup>10)</sup>と呼ばれ完成した橋が中央の下呂大橋である(左側は現在でも未建設)。

昭和35年に下呂町長名義で岐阜県知事に提出された『下呂大橋架橋促進陳情書』<sup>11)</sup>によると, 幸田の下呂駅と湯之島の温泉街を結ぶ橋梁について「…戦前に於いて既に架橋準備完了し…」や「…鉄道開通前より既に参拾余年間の懸案にもかゝわらず…」と, 湯之島と幸田を結ぶ橋の構想が戦前, 鉄道開通前より存在した事が述べられている。昭和8年6月6日の第八回下

呂町會議において『議第四一號』<sup>12)</sup>で, 下呂町長から岐阜県知事へ「下呂町橋梁架設申請ノ件」として「下呂町湯之島字下夕島・字溝添地内」(当時湯之島は湯之島組と幸田組に両岸で分れており, 字溝添は現在の幸田)に橋梁架設のための補助申請をするという案が出されている。しかし実際このような橋梁は建設されなかった。その理由は『下呂大橋架橋促進陳情書』<sup>13)</sup>によると, 「架橋準備完了し工着手寸前に大東亜戦争となった為」, そして「その後橋梁位置や事業費の関係」からとされる。後者からは橋梁が街に接続する位置について利害関係が対立して調整がつかなかったことも推察される。下呂大橋は昭和39年まで竣工を見ない。

結果的に六見橋が先に架け替えられた。生活基盤としての六見橋はしばらくの間, 観光振興の象徴的存在としての役割を担うことになる。

### 4. 結論

六見橋架設の経緯として, 六見橋は鉄道開通に伴う交通量の増加に対応するため架け替えられた橋梁であること。その際, 下呂駅と温泉街を直接結ぶ橋梁の構想が存在していたが, 結果的に少ヶ野と森を結ぶ六見橋が先に架設されたこと。そして六見橋が架設された森地区には市街化計画があり, 都市の拡大を考え, 区画整理されていたことが明らかになった。

#### 参考文献

- 1) 北條浩, 『下呂温泉史料集』, 下呂温泉保護協会, 1967
- 2) 1/5000地形図(大日本帝国陸地測量部, 1911より)  
『下呂町誌』, 『飛騨下呂』等の各資料より
- 3) 下呂町, 『湯の街下呂』, 下呂町役場発行, 1935
- 4) 下呂町史編集委員会, 『飛騨下呂史料I』, 1983
- 5) 下呂村會議録, 「議案第四號橋梁設計及補助申請之件」, 下呂市総務課所蔵, 1918
- 6) 第三回下呂町會議録, 「議案第十二號橋梁架設ノ件」, 下呂市総務課所蔵, 1930
- 7) 下呂町役場・農會, 下呂町報,
- 8) 下呂町, 『下呂町誌(復刻版)』, 名著出版, 1974
- 9) 土第113號「道路網計画書提出について」及び土第136號「都市計画街路決定に関する資料提出について」, 下呂市建設課所蔵, 1950  
(図-2は, 昭和25年6月2日下呂町長名義で提出されたである。下呂町の都市計画指定は昭和11年であるが, 「変更」ではなく「決定」とあることから, 最初期の街路計画であると考えられる。)
- 10) 岐阜日日新聞朝刊, 『「夢の大橋」案具体化』, 1960.11.14
- 11) 岐阜県下呂町, 「下呂大橋架橋促進陳情書」, 下呂市建設課所蔵, 1960
- 12) 第八回下呂町會議録, 「議第四一號下呂町橋梁架設申請ノ件」, 下呂市総務課所蔵, 1933
- 13) 前述, 岐阜県下呂町, 「下呂大橋架橋促進陳情書」, 下呂市建設課所蔵, 1960